



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1995・96年度国際ロータリー・テーマ 国際ロータリー会長 ハーバート・グラハム・ブラウン



Act with Integrity
Serve with Love
Work for peace

〈本日のプログラム〉 竹内ガバナー公式訪問日

第 373 回 平成 7 年 7 月 28日(金)

1. 点 鐘
 2. ロータリーソング
「手に手つないで」
 3. 食 事
 4. 会 長 の 時 間
 5. 幹 事 報 告
 6. 各 委 員 会 報 告
 7. ガバナー・アドレス
 8. 点 鐘
- クラブ協議会

会 長 藤 堂 孝 一
副会長 斎 藤 芳 夫
幹 事 福 井 輝 文
会 計 中 武 靖 雄
会 議 員 長 垂 水 敏 雄

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

例会場 ホテル神宮寺 ☎0985-73-0015

事務所 ☎880-02佐土原町大字下田島7912

(株)福井工務店内☎0985-73-0291

第372回例会記録

(1995. 7. 21)

☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今日は、本日は第372回例会です。

7月14日の例会で、当クラブはGSEの受け入れは現状では無理と思われるので、受け入れできないという基本線で皆さんの同意を得たのですが、7月19日に開かれました“本年度GSE受け入れに関する協議会”で、10月20日から21日の間は西都・高鍋・佐土原クラブで受け入れてもらいたいとの割り当て要請がありました。

三クラブとも即答はできませんでしたので、8月3日頃に三クラブで話し合うことにしました。当クラブからの出席者は、ロータリー財団委員長柳田君・国際奉仕委員長森田君と私です。

今年度のGSEはアメリカのバージニア州内のクラブから派遣され、リーダー以下5名です。

ホームステイ受け入れ可能な方は私まで至急ご連絡をお願いします。

☆幹事報告

福井輝文君

1. 例会変更通知は来ていません。
2. 次週の例会はガバナー公式訪問です。背広、ネクタイ着用をお願いします。

本日のビジター

西都RC 福本 博君 小畑正照君
" 上杉兼祺君 平岩七朗君

☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会 員 数	30名
H C 出席者数	25名
欠 席 者 数	5名
出 席 率	83.3%
メークアップ者数	3名
修正出席率	93.3%
欠 席 者 名	垂水・郡司



☆新年度の方針

[四大奉仕委員会]

○ クラブ奉仕委員長 児玉武文君

各小委員会がそれぞれ重点事項として掲げる活動が円滑に行われ、その成果が効果的に得られるように連絡調整して、明るく、活力に満ちたクラブの運営に寄与したい。

佐土原クラブも会員数が30名になり、従来以上に組織的な相互の連絡が必要になってくると思う。

この点に留意して、内部の調整を一層密にすることにより数の力が発揮され、外部に対しての実践部門としての奉仕活動が充実すると考える。

○ 職業奉仕委員長 大野高志君

職業奉仕とは、各会員が自己の事業、職業の場で、その事業や職業を通じて、社会のため人々のために尽くす活動であると言われています。

また職業奉仕は、相手の必要と境遇に対して正当な考慮を払うとともに、常に他人に対し思いやりの心をもって接することが根本となっているのは言うまでもありません。

このような職業奉仕についての基本的理念の修得を促進し、各会員が自己の事業及び専門職務の道徳的水準をさらに高め、あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めることができるように、職業奉仕委員会としてはいろいろなプログラムを通じて尽力したいと考えます。

具体的な活動計画は、公式訪問報告書（P31）に記載してあるとおりです。

○社会奉仕委員長 伊東忠寛君

関係行政機関との連絡調整を積極的に行いながら、社会奉仕に関する情報の収集と分析・検討を行う。

地域社会のニーズの把握に努め、そのニーズに適合し、かつ、当クラブの体制に合った、予算の可能範囲内での効果的な社会奉仕活動を進めていく。

会員に対する社会奉仕理念の意識付け、社会奉仕活動への参加意欲の向上を計るために、全会員から社会奉仕活動計画に関する提案とか情報提供制度を設ける。

社会奉仕委員会を年3回以上開き、地域の実態にマッチした、実効の挙がる活動を推進したいと考えている。

活動計画は公式訪問報告書に記載。

○国際奉仕委員長 森田邦宏君

ロータリーの国際奉仕が目指しているものは「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人々の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する。」ことでありますが、佐土原ロータリークラブの現段階では、先ずこの地域に生活しておられる外国人との交流の機会をつくり、会員の外国の文化・風俗・習慣等に対する理解を深め、国際親善推進に寄与したいと思います。

○クラブ協議会

四大奉仕委員長に続いて各委員長より、本年度の活動方針及び活動計画の発表が力強くありました。



第1回ガバナー公式訪問での、クラブアッセンブリーにおけるガバナー（池田卓郎氏）の指導・助言事項

[分類・選考委員会]

会員数が少ないクラブは、このように統合してもよい。

職業分類数は、会員数の30倍程度が目安である。

会員としてはどのような人がよいかと言えば、少なくとも、①協調性のある人 ②例会に出席できる人、の条件を満たすことである。

[会員増強委員会]

クラブ脱会者は年間平均10%ぐらいであるから、毎年15%増強を目標としなければいけない。全会員で取組むこと。

[S A A]

S A Aは例会場の設営だけでなく、会場の監督者という大きな権力を持っているのである。そのため、会長経験者が担当しているクラブも多い。

例会の秩序と品位を保つ機能は、S A Aに与えられたものであるから、会議中の私語を規制したり、早退者への許可を出したりもする。

また、例会の食事メニューもS A Aが決めることになっている。

[職業奉仕委員会]

職業奉仕が世界のロータリークラブで最も疎外されている部門である。

R I 職業奉仕委員会でも、職業奉仕の活性化に取り組んでいるところである。

すべての職業は、その能力を社会に寄与するものでなければならない。

[社会奉仕委員会]

1905年に世界で初めてシカゴロータリークラブが創立されたときは、「友愛と親睦」が目的であった。

1908年に入会したアーサー・フレデリック・シェルドンが奉仕の概念を拓き、1911年のロータリー大会で「超我の奉仕」及び「最もよく奉仕する者は最も多く報いられる」を根本理念とすることになった。

その後、『クラブ例会で自己を高め、企業に還元して社会に奉仕する』——理論派と『弱者救済運動を主張する』——実践派との対立が続いたが、1923年の大会の34号議案で中間をとり、個人奉仕を主体にすることになった。(ロー

タリークラブとしての団体的奉仕活動もロータリー綱領の趣旨に沿って実施できる。)

佐土原クラブが、地域のニーズに応じた緑化推進運動を計画されているのは大変よいことである。

最近は額に汗する奉仕活動が少なくなってきたが、共に植樹作業などをするのは、クラブの結束や親睦のためにも大切な奉仕活動であると思う。

[国際奉仕委員会]

主な奉仕活動は、諸外国との青少年交換とか研究グループ交換(G. S. E.)である。かなりの財源が必要なので、近隣のR Cと提携する方法なども考えられる。開発途上国がR Iに援助を要請したリストの中から、地区又はクラブで協力可能なものを提供する世界社会奉仕への参加もある。

[ローリー財団委員会]

教育を基本目的として、青少年の国際的交流を計るために創設されたロータリー財団であるが、ポール・ハリスの遺産の寄付があって、やっと活動しだした。

現在は、全世界のロータリアンなどの寄付金により、次のような事業をするまでに発展している。

1. 奨学金制度
2. 研究グループ交換(G. S. E.)
3. 職業上で仕事する大学教員のための補助金
4. 特別補助金
5. ポリオ・プラス
6. 3Hプログラム
7. ロータリー・ボランティア
8. 災害救援